

# 大分県長期漁海況予報

〔平成 20(2008)年 9 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕

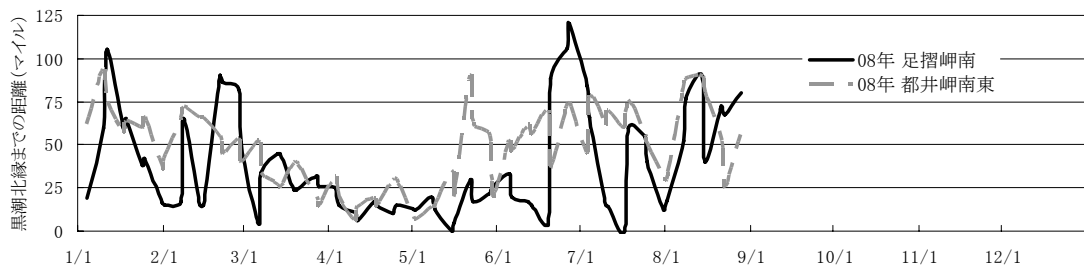


大分県農林水産研究センター水産試験場 879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6  
Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

## 海況経過<平成 20 年 4～8 月>

### ■黒潮

4 月～5 月中旬まで、九州南東沖(都井岬～足摺岬沖)の黒潮は概ね接岸傾向が継続しました。6 月には、4 月中旬に都井岬沖で形成され始めた小蛇行が四国沖まで拡大し、九州南東沖で「著しい離岸」となりました。7 月中旬以降、九州南東沖の黒潮は離接岸を繰り返しています(図 1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報より)

### ■水温

豊後水道西部海域の水温(0～75m層)は、概ね「やや高め」で推移しました。4 月は「やや高め」、5 月は「高め」、6～8 月は「やや高め」でした(図 2)。

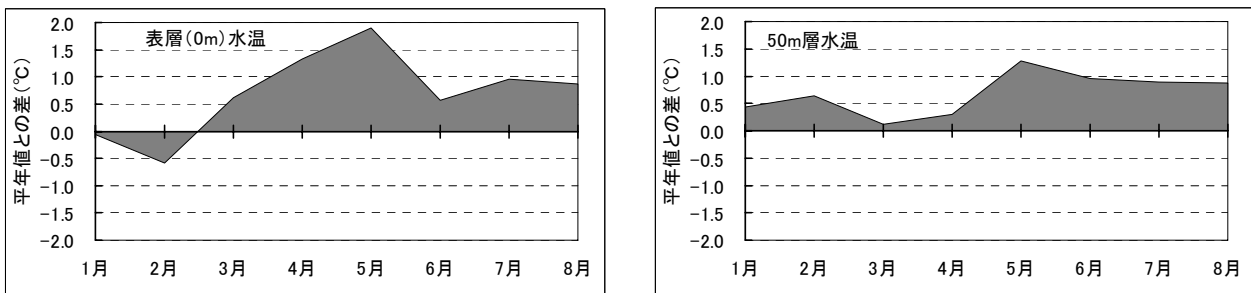


図 2 豊後水道西部海域における水温の平年差(左図：表層水温、右図：50m層水温)

### ■塩分

豊後水道西部海域の塩分(0～75m層)は、概ね「平年並み」で推移しました。4～6 月は「平年並み」、7 月は「やや低め」、8 月は「平年並み」でした(図 3)。

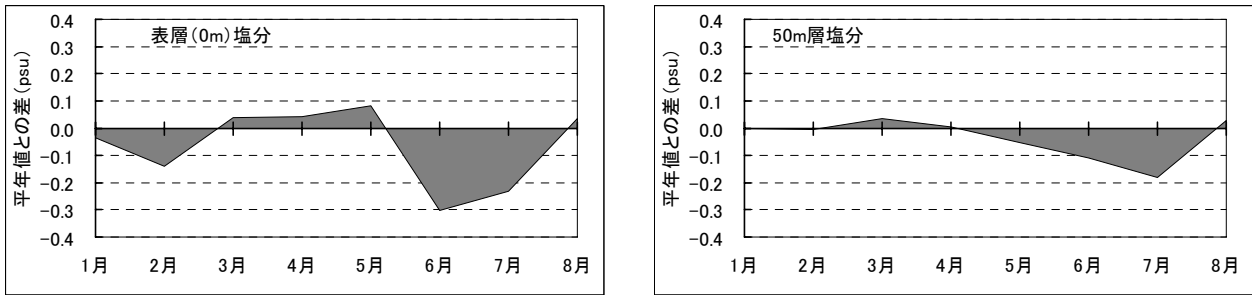


図3 豊後水道西部海域における塩分の平年差（左図：表層塩分、右図：50m層塩分）

## 今後の海況の見通し＜平成20年9～12月＞

### ■黒潮

九州南東沖（都井岬～足摺岬沖）の黒潮は、9月までは変動が大きく離接岸を繰り返し、10～11月には離岸傾向となるでしょう。

黒潮が足摺岬沖で接岸した際には、小潮時に豊後水道南部海域へ黒潮系暖水が流入する確率が高いでしょう。

### ■沿岸水温

「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

### ■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成20年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報（中央水産研究所及び関係府県：2008）に従いました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられ、福岡管区气象台の「九州北部地方3か月予報」では、9～11月の平均気温は「高い確率50%」と予測しています。
- ・近年、豊後水道沿岸の表面水温は上昇傾向にあります。
- ・8～9月の黒潮は四国沖では変動が大きく離接岸を繰り返すと予測されているため、黒潮系暖水が豊後水道内へ波及しやすい状況となり、暖水波及時には一時的に水温が「高め」基調となる可能性が高いです。

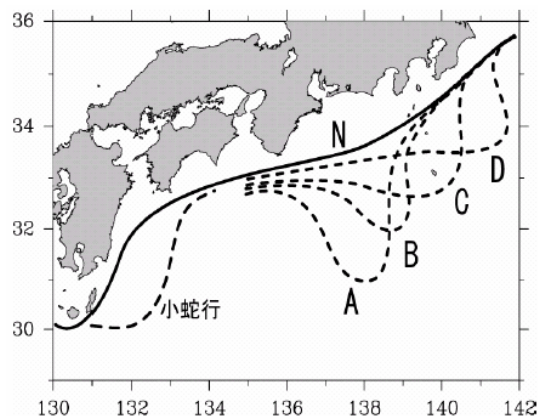


図4 黒潮流型の分類

※上図は平成20年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報（水産庁プレスリリース資料）より引用

## ■マイワシ

### 2008年4～7月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は413トンで、前年比123%、1986～2007年までの比(以下「平年比」という)7%と、1980年代の高水準期には及ばないものの、過去5年の水準を上回るまとまった漁獲となりました。

漁獲の主体は、被鱗体長10～14cmの0歳魚(2008年生まれ)で、今年は漁獲時期が遅れ、6月中旬以降、豊後水道南部沿岸においてカタクチイワシ、ウルメイワシと混獲されていました。

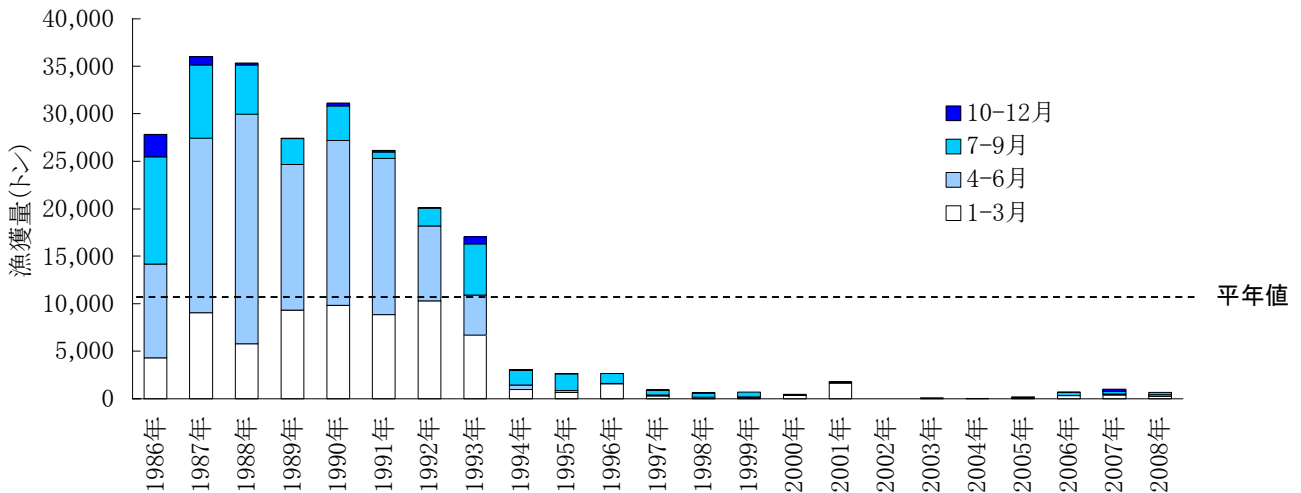


図2 マイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成20年9～12月>



### 来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は依然として低水準で、まとまった漁獲のあった前年を下回るでしょう。

### 漁獲対象年級群及び体長、漁期、漁場:

被鱗体長12～18cm(体重15～70g)の0歳魚(2008年生まれ)が主体で、1歳魚(2007年生まれ)は混じる程度でしょう。近年の調査結果によれば、0歳魚は9～10月には僅かに混獲される程度で、11～12月に豊後水道南部沖合でまとまって漁獲される傾向にあります。湾内などの沿岸域での漁獲はあまり期待できません。

### 【説明】

9～12月の漁獲主体となる0歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、豊後水道沿岸での小羽銘柄(幼魚)期の漁獲量は前年を上回ったものの、太平洋沿岸の産卵量が前年を下回っていたこと(54%)、シラス漁でのマイワシシラス(稚魚)の混獲が前年よりも少なかったこと、近隣海域の多くで小羽銘柄(幼魚)期のまき網漁獲量が前年を下回ったことから、近年の中では比較的まとまった漁獲のあった前年0歳魚(2007年生まれ)を下回ると考えられます。

これらのことから、マイワシの来遊量は、まとまった漁獲のあった前年を下回る見込です。

## ■カタクチイワシ(成魚)

### 2008年4～7月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は1,266トンで、前年比81%、平年比112%と、好調であった前年を下回り、平年をやや上回る漁となりました。例年と同様に1～5月までは漁獲が少なく、6月に入ってから漁獲が本格化しました。漁獲の主体は、被鱗体長8～12cm前後の1歳魚(2007年生まれ)であり、豊後水道南部沿岸においてウルメイワシ、マイワシとともに漁獲されていました。

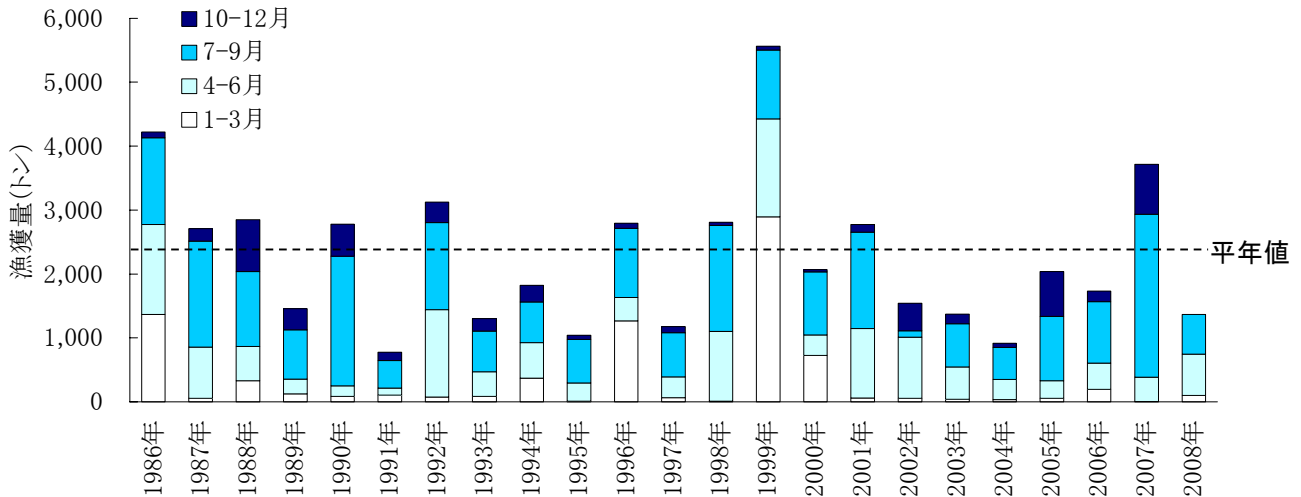


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成20年9～12月>



### 来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、小羽～中羽が好調であった前年を下回るでしょう。

### 漁獲対象年級群及び体長:

9月は0歳魚(2008年生まれ)と1歳魚(2007年生まれ)が混じり(体重1～20g)、10～12月は被鱗体長4～9cm(体重1～9g)の0歳魚(2008年生まれ)が主体となるでしょう。

### 【説明】

9月までまとまった漁獲が見込める1歳魚(2007年生まれ)の資源水準は、昨年10月以降のまき網の漁獲状況が好調なことから、前年1歳魚を上回ると考えられます。

しかしながら、期間(9～12月)を通して漁獲される0歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸の産卵量が前年を下回っていたこと(約50%)、本県を含め近隣海域でカタクチシラス(稚魚)漁が不漁であることから、発生量が前年に比べてかなり少なく、今後のまとまった来遊が期待できません。

これらのことから、カタクチイワシの豊後水道沿岸への来遊量は好調であった前年を下回る見込です。

## ■ウルメイワシ

### 2008年1～7月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は524トンで、前年比77%、平年比96%と、好調であった前年を下回り、平年並みの漁となりました。漁獲の主体は被鱗体長8～13cm前後の0歳魚(2008年生まれ)で、今年は漁獲時期が遅れ、6月中旬以降から、豊後水道南部沿岸においてカタクチイワシ、マイワシと混獲されていました。

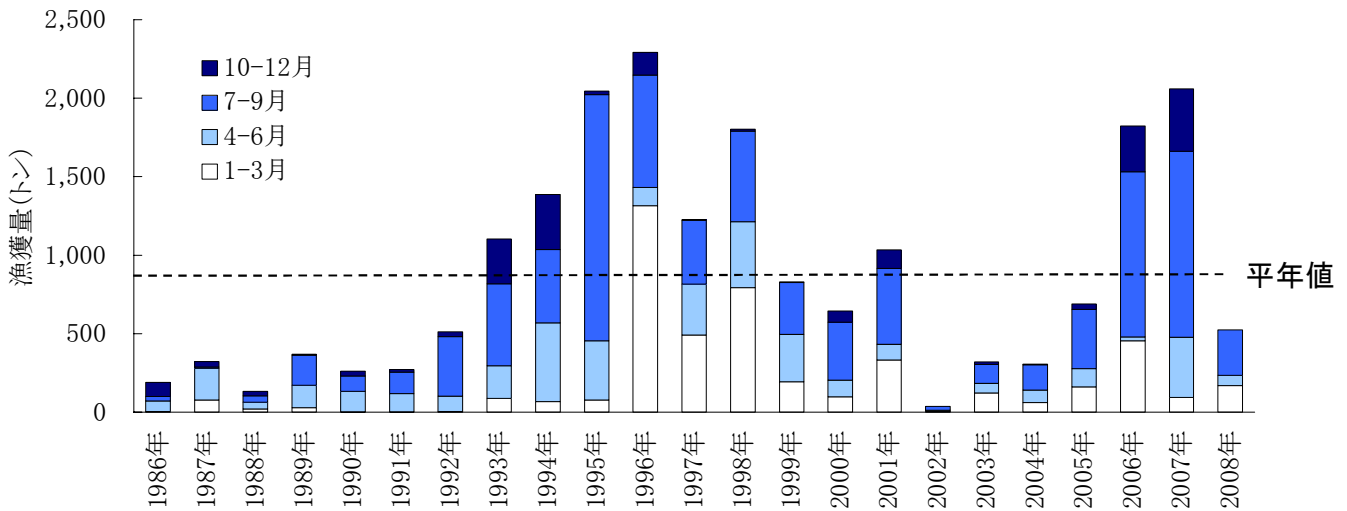


図5 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成20年9～12月>



### 来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、豊漁であった前年は下回りますが、比較的まとまった漁獲が見込めるでしょう。

### 漁獲対象年級群及び体長、漁期、漁場:

被鱗体長7～17cm(体重10～70g)の0歳魚(2008年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。近年の調査結果から、9月までの漁獲はある程度見込めますが、10～11月は沖合で僅かに漁獲される程度となり、12月に再び豊後水道南部沖合でまとまって漁獲される傾向にあります。10月以降、湾内など沿岸域での漁獲はあまり期待できません。

### 【説明】

9～12月の漁獲主体となる0歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸の産卵量が前年を下回っていたこと(約70%)、シラス漁でのウルメシラス(稚魚)の混獲が前年よりも少なかったこと、近隣海域の多くで小羽銘柄(幼魚)期のまき網漁獲量が前年を下回ったことから、豊漁であった前年0歳魚(2007年生まれ)を下回ると考えられます。

また、先述のように近隣海域のまき網の漁獲状況は豊漁であった前年を下回っていますが、平年並み程度の漁獲がみられています。

これらのことから、豊漁であった前年は下回りますが、9月と12月には比較的まとまった漁獲が見込めるでしょう。

## ■マアジ

### 2008年1～7月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は477トンで、前年比132%、平年比28%と不漁であった前年は上回ったものの、平年を大きく下回る低調な漁となりました。このうち1～3月の漁獲の主体は豊後水道中部～南部で漁獲された尾叉長17～18cm前後の1歳魚(2007年生まれ)でした。4～7月の漁獲の主体は豊後水道中部～南部で漁獲された尾叉長17～18cm前後の1歳魚(2008年生まれ)でした。

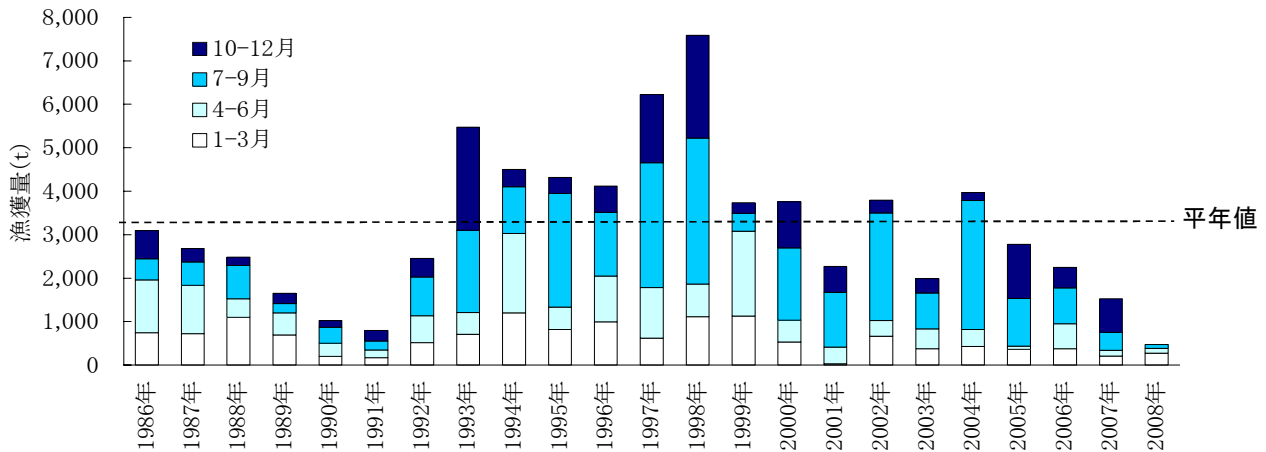


図6 マアジのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し＜平成20年9～12月＞

### 来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、低調であった前年並みか前年を上回るでしょう。



### 漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長8～18cm(体重10～80g)の0歳魚(2008年生まれ)が漁獲の主体で、1歳魚以上は混じる程度でしょう(1歳魚以上は豊後水道中部以北が主要漁場)。近年の調査結果から、9～10月にまとまって漁獲されると予想されます。

### 【説明】

8～12月の漁獲主体となる0歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、近隣海域の多くで豆ゼンゴ銘柄(幼魚)期の定置網漁獲量が前年を上回っていることから、不漁であった前年0歳魚(2007年生まれ)を上回ると考えられます。

一方、九州南東沖の黒潮は、10～11月に離岸傾向で推移すると予想されており、黒潮系暖水が流入しにくい状況になると考えられます。このことから、マアジ0歳魚が黒潮系暖水とともに外海から来遊しにくい状況になることも想定されます。

以上のことから判断して、マアジの豊後水道南部への来遊量は低調であった前年並みか前年を上回る見込です。

## ■サバ類

### 2008年4～7月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量はゴマサバ主体に34トンで、前年比767%、平年比2%と不漁であった前年は上回ったものの、期間を通して不漁が継続しました。期間中の漁獲の主体は7月下旬以降から豊後水道南部で漁獲され始めた、尾叉長27cm前後のゴマサバでした。

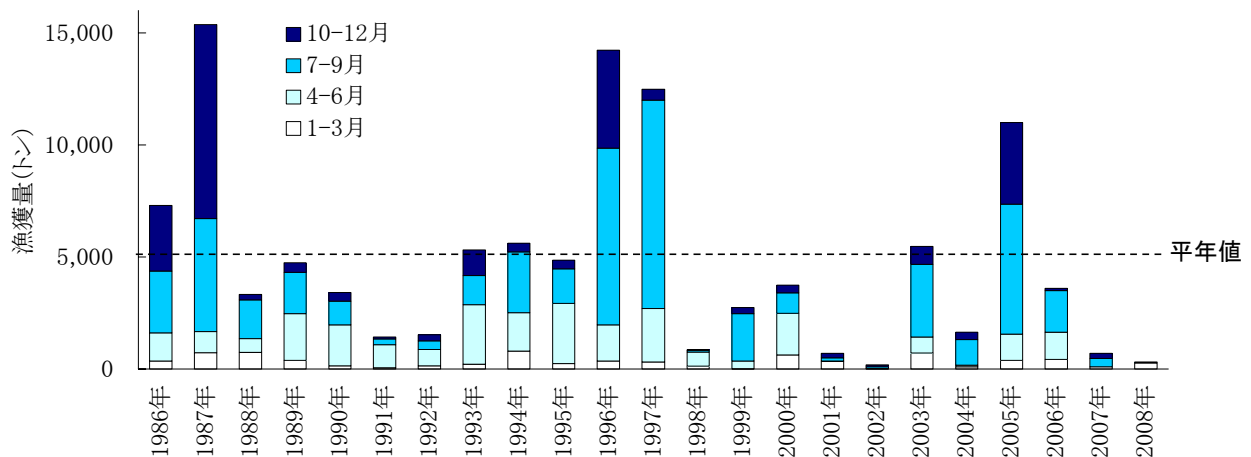


図7 サバ類 (マサバ・ゴマサバ) のまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<平成20年9～12月>

### 来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、ゴマサバ主体に不漁であった前年を上回るでしょう。



### 漁獲対象年級群及び体長:

9月は尾叉長20～28cm(体重100～300g)のゴマサバ0歳魚(2008年生まれ)と1歳魚(2007年生まれ)が主体でしょう。10月以降は尾叉長20～25cm(体重150～200g)のゴマサバ0歳魚(2008年生まれ)主体にマサバ0歳魚が混獲されるでしょう。

### 【説明】

9月までまとまった漁獲が見込める1歳魚(2007年生まれ)の資源水準は、7月下旬以降のまき網の漁獲状況が好調なことからみて、前年1歳魚(低水準)を上回ると考えられます。

一方、10月以降に漁獲される0歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、九州南方海域での漁獲状況が前年を上回っていることから、前年0歳魚(2007年生まれ)を上回ると考えられます。

これらのことから、豊後水道南部海域への来遊量はゴマサバ主体に不漁であった前年を上回る見込です。

## その他

### ■予測の根拠および参考資料

平成20年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2008)

### ■用語解説

年級群 : ある年生まれの同種の個体群。2008年級群=2008年生まれの個体群。

卓越年級群:漁獲対象資源へ成長するまでに生き残った個体数が他の年に比べて特別に多い年の年級群。

被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究センター水産試験場 栽培資源担当まで

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156